

巡回展「有珠火山-その魅力と噴火の教訓-」の開催

The traveling exhibition, "Usu Volcano -Its Disasters and Blessings"

東宮 昭彦^{1*}, 定池 祐季², 伊藤 大介², 渡辺 真人¹, 佐藤 公³, 池辺 伸一郎⁴, 三松 三朗⁵,
菊川 茂⁶, 福井 幸太郎⁶, 吉田 大祐⁷, 川畑 晶¹, 中島 和敏¹, 岸本 清行¹, 青木 正博⁸,
吉田 朋弘⁸

Akihiko Tomiya^{1*}, Yuki Sadaike², Daisuke Ito², Mahito Watanabe¹, Hiroshi Sato³,
Shinichiro Ikebe⁴, Saburo Mimatsu⁵, Shigeru Kikukawa⁶, Kotaro Fukui⁶, Daisuke Yoshida⁷,
Sho Kawabata¹, Kazutoshi Nakajima¹, Kiyoyuki Kisimoto¹, Masahiro Aoki⁸,
Tomohiro Yoshida⁸

¹産総研地質調査総合センター, ²北海道大学大学院文学研究科, ³磐梯山噴火記念館, ⁴阿蘇火山博物館,
⁵三松正夫記念館, ⁶立山カルデラ砂防博物館, ⁷雲仙岳災害記念館, ⁸産総研地質標本館

¹Geological Survey of Japan, AIST, ²Hokkaido University Faculty of Letters, ³Bandaisan Volcano Museum,
⁴Aso Volcano Museum, ⁵Mimatsu Masao Memorial Museum, ⁶Tateyama Caldera Sabo Museum,
⁷Mt. Unzen Disaster Memorial Hall, ⁸Geological Museum, AIST

1. はじめに

巡回展「有珠火山-その魅力と噴火の教訓-」を2009年6月より開始した。この巡回展は、全国火山系博物館連絡協議会と産総研地質標本館が連携して開催しているもので、2006-2007年に開催された巡回展「三宅島火山-その魅力と噴火の教訓-」に続く第2弾である。

有珠火山では2000年に噴火があり、周辺住民1万人以上が避難することになったほか、噴出物・泥流・地殻変動などによる大きな被害があった。有珠火山は20-30年おきに噴火を繰り返しており、今の子どもたちが大人になった頃にはまた噴火する可能性が高い。一方で、有珠火山周辺の素晴らしい景観や温泉といった恵みは、火山がもたらしてくれたものでもある。

本巡回展は、噴火を知りそこから学ぶとともに、火山が本来持つ魅力をも知って、人びとが火山とうまく共生していけることを目指して企画された。なお、今年2010年は、有珠火山の2000年噴火10周年および明治噴火100周年にあたる。

2. 実施体制とスケジュール

産総研地質標本館に事務局を置き、産総研地質調査総合センターおよび全国火山系博物館連絡協議会のメンバーが、2008年初頭より企画・制作を進めてきた。地元の情報収集には洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会などの協力を得た。

2009年6月に立山カルデラ砂防博物館を出発点として巡回を始め、同年7月から雲仙岳災害記念館、同10月から阿蘇火山博物館、2010年4月から磐梯山噴火記念館、同年7月から地質標本館で開催予定である。今後は、有珠火山地域でも開催が予定されているほか、他地域での開催も計画中である。

3. 展示内容

展示の内容は、大きく3つの部に分かれている。

第1部は「有珠火山について知る」と題し、有珠火山の主に火山学的な解説を行なっている。有珠火山のおいたち、噴火の特徴、歴史時代の噴火、有珠火山の岩石、地下のマグマの動き、噴火が生んだ温泉、などが解説されている。また、有珠火山の仲間たち、として、有珠と似たタイプの活動をする火山についても紹介している。

第2部は「火山との共生」と題し、主に社会的な内容から成る。この内容は、北海道大学総

合博物館第58回企画展示「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」(2008年)の展示の一部を再構成・更新したものである。研究者と行政の連携、避難所や仮設住宅での生活、噴火の教訓や火山の恵みを伝える取り組み、エコミュージアム、有珠山に対する住民の想い、を解説している。

第3部は「ジオパーク」である。洞爺湖有珠山地域は、2008年に日本ジオパーク、2009年に世界ジオパークにそれぞれ認定された。ここでは、ジオパークとは何かの解説や、日本にあるジオパークの紹介を行なっている。

展示は主に解説パネル(約20枚)から成るが、それ以外にも1辺約3mの大判の床張りポスター3枚(一部会場では壁に張り出し)や、有珠火山の岩石や火山灰試料の実物展示などがある。床張りポスターでは、アジア航測株式会社提供の航空写真と数値標高データを用いて作成した「有珠2000年火口群周辺の立体画像」(赤青メガネ着用)が、子供たちにも好評である。さらに、一部会場では公開できなかったが、噴火時の避難所生活を再現したセット(避難所再現コーナー)は、避難所生活の一端を見られるとあって注目されている。

なお、展示解説パネルの内容は、巡回展終了後に産総研地質調査総合センターのウェブサイトにおいて公開される予定である。

4. おわりに

巡回展は、各地を巡ることによって、様々な地域の人びとに見てもらえることができる点が魅力である。巡回展「有珠火山」を今後開催しても良いという会場(博物館等)がもしあれば、ぜひ事務局までご連絡いただきたい。

最後になるが、本巡回展は上記に挙げた諸団体のほかにも、写真・図の提供等で多数の方々の協力をいただいている。スペースの都合でここには挙げ切れないが、これらの方々に深く感謝したい。

キーワード:有珠山,火山災害,火山との共生,火山教育,博物館,アウトリーチ活動

Keywords: Usu Zan, volcanic disasters, coexistence with a volcano, volcano education, museum, outreach activities